第20回中部電力原子力安全向上会議アドバイザリーボード　議事要旨

１．日　時：2024年2月5日（月）14時40分～17時00分
２．場　所：中部電力本店内会議室
３．出席者：＜社外委員＞小林委員、勝治委員、長﨑委員、服部委員、吉橋委員
＜社内委員＞林社長、増田副社長、水谷副社長、伊藤副社長、伊原専務、片山専務
＜関係者＞　名倉原子力部長、佐野総務・広報・地域共生本部部長、
森経営考査室長、加藤経営戦略本部部長（司会）

４．議事要旨
「至近の状況（能登半島地震・羽田空港航空機衝突事故）」、「前回のアドバイザリーボードでのご意見について」、「「原子力安全向上に向けた更なる取り組み（ロードマップ）」の振り返りと今後の対応 」、「2024年度の取り組み方針」について当社より説明。多岐にわたる議論がなされた。
主な意見は以下のとおり。

○今回の能登半島地震を踏まえ、避難計画の重要性を再認識した。原子力防災については、行政（消防や警察、自衛隊等）とより綿密に連携する必要があると感じた。

○緊急時の迅速かつ正確な情報発信について、情報提供の仕組みやマニュアルを整備することはもちろん重要であるが、最後は現場の能力に負う部分が大きい。このため、情報の訂正を含めた伝達体制の仕組みと現場の能力の両方を改善していくことが必要だと思う。

○原子力の安全性そのものに対して事実と異なる情報を与えるような発言に対しては、個社の枠組みを越えた対応も必要だと思う。

○羽田空港航空機衝突事故では旅客機から全員が脱出でき、現場に対する訓練の重要性が再確認された。中部電力も含めてこれから再稼働を目指すBWR（沸騰水型原子炉）は、経験者も減り不安を持っているかもしれないが、様々な状況下において、どのように考え、判断するかを徹底的に訓練しておけば、稼働中の運転経験がない運転員でも、自信を持って送り出すことができる。

○基本確認の徹底に重要なことは、①基本確認が抜けた時の怖さ（悲惨さ）を事例で教えること、②ファンダメンタルズ（原子力発電の業務に従事する者の心得）等の目的を考えさせ、気がついた時に行動に移させること、③上司や先輩自身が基本確認を徹底すること、④基本確認を行っている人を褒めて評価すること、⑤基本確認を確実に行うように指導すること、だと思う。

○内部監査は現場の当事者が気付かない部分について客観的な視点で指摘でき、有用である。原子力部門のマネジメント層の育成の観点も含め、人員配置するとよいと思う。

○安全性向上を目指すロードマップの更新について、防災体制の強化や目指す姿等がより明確化されたものと認識。従業員に対しても、会社として原子力安全性向上を目指すロードマップの継続的な理解浸透が必要だと考える。

〇組織のコミュニケーションにおいては、人によって感じ方が異なるため、全体のミーティングだけではなく、1on1 等の各個人に対するコミュニケーションを活用することで、改善できるのではないか。

〇次世代層に向けたイベントなどの取り組みは、保護者の方々との対話の機会にもつながり、幅広い層とのコミュニケーションの機会の拡充に資する取り組みであるため、より積極的に進めていくべきである。

以上